

が撮れるんですよ。手焼きした写真はデジタルで加工したものとはどこかたまたま違っていてすごく温かい雰囲気になるんですよ。

市長 映画の原案となったもう一冊の写真集「アルバムのチカラ」で、まさに現像して焼き付けたフィルム写真のことが紹介されています。東日本大震災の津波で汚れてしまったアルバムや写真を洗浄して蘇らせるボランティアをされた経験から、この写真集ができたわけですね。

浅田 震災当時、さまざまな職業の人たちが被災地のためにできることをしようという機運がありました。僕は被災地の何かを撮ることが力になるというよりはむしろ邪魔かもしれないと思い前向きになれなくて、岩手県野田村にボランティアに行っただけです。そこで、寒風吹きすさぶ中、写真を洗って持ち主に返却している青年に出会いました。写真はこういう時に無力で、僕は何もできないと思っていたけれど、日常が変わってしまった野田村では、まちや人々の生き生きとした様子が写った写真が心の支えとなっていました。写真が必要とされていたんです。その出会いをきっかけに写真洗浄を始め、約2年間かけて宮城県気仙沼市や山元町などの写真洗浄ボランティアの現場9カ所ほど取材させ

ていただきました。

市長 写真洗浄ボランティアのシーンも出てくる映画「浅田家！」ですが、映画化の話が届いた時にどう受け止められましたか。

浅田 実はお話自体は9年ほど前から頂いていて、それだけで光栄だと思っていました。実際に映画化が決まって、生まれ育った津市でロケをしていただいたばかりか僕が歩んできた人生のシーンまでも多く描いてくださったことは意外でした。全く違うストーリーになると思っていました。

市長 昨年、浅田さんご自身も津市で1つの作品「津カルタ」の制作に携わられています。私も谷川士清役で出演させていただきましたが、撮影はいかがでしたか。

浅田 橋南中学校の同級生が企画した「津カルタ」は市民の皆さんからモデルを募集して、観光名所やおいしいグルメなど、津を47の句で表現したものです。写真のカルタは全国的にも珍しいと思います。難しい面もたくさんありましたが、津市の皆さんとコラボレーションできるのは魅力的でした。

市長 浅田政志さんでなければ撮れないシーンがいっぱい出てくるカルタですね。最後に、これからの目標について、お聞かせください。



卒業制作 最初の一撮(再撮) 2000年

浅田 4人からスタートした家族写真ですが、兄も僕も結婚して、子どもにも恵まれ、計9人になりました。今は年に1回、家族でいろんな都道府県に行って、その土地らしい1枚を撮っています。あと37都道府県で全国行脚ができるという構想で、完成するころ僕は78歳。そのとき、息子は今の僕より年齢が上になります。彼にも家族ができて家族構成も変わっているかもしれない。今でも家族写真を撮るのが一番楽しくて夢中になれることなので、そんな年月を閉じ込めたような家族の写真を撮り続けたいです。

市長 「家族の絆」が感じられるすてきな浅田ファミリーですね。これからも故郷・津を愛し、世界へと羽ばたく写真家・浅田政志さんを、津市民の皆さまとともに応援いたします。

日本映画界を代表する超豪華キャストで描かれる「浅田家！」は、新型コロナウイルス対策がしっかり行われながらの全国ロードショーとなります。どうぞご期待ください。

津を愛しながら
世界へ羽ばたく
写真家に
なってください



津市長
前葉泰幸
MAEBA YASUYUKI

市長対談の全編がご覧いただけます!
MAYOR'S TV SHOW

- ◆ 津市ホームページ 津市 市長対談 検索
- ◆ ケーブルテレビ行政情報番組(123ch)

